

トラック輸送情報（平成17年4月分）

平成17年 7月28日
 国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課
 担当：高橋、荒木、荒井 内線28315
 直通：03-5253-8342
 ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

1. 特別積合せ貨物

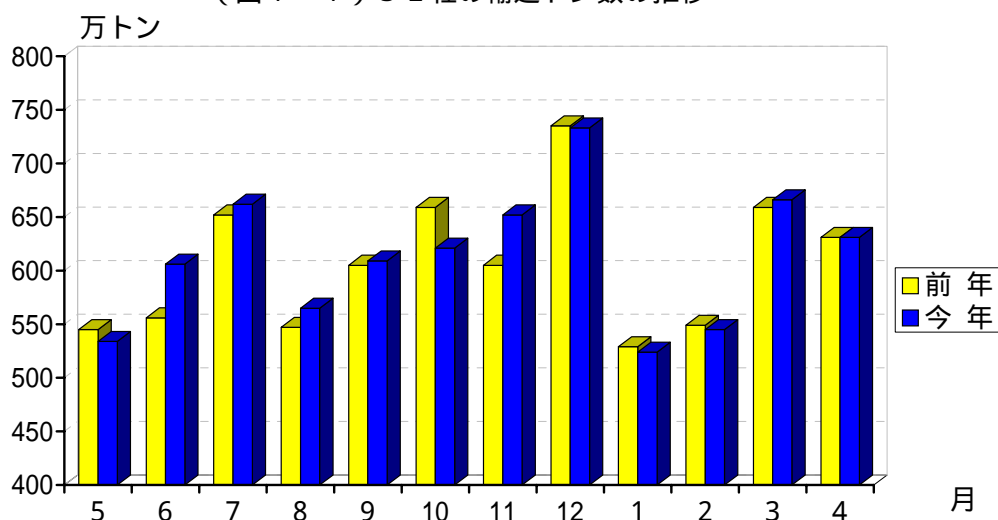
(1) 本月の概況

調査対象32社の本月の輸送量は、6,312,553トンで、前月と比べ、総輸送量が約35万トン減少したため、前月比94.7%（季節調整済み 99.9%）、前年同月と比べ、約7千トン増加したため、前年同月比100.1%の実績であった。

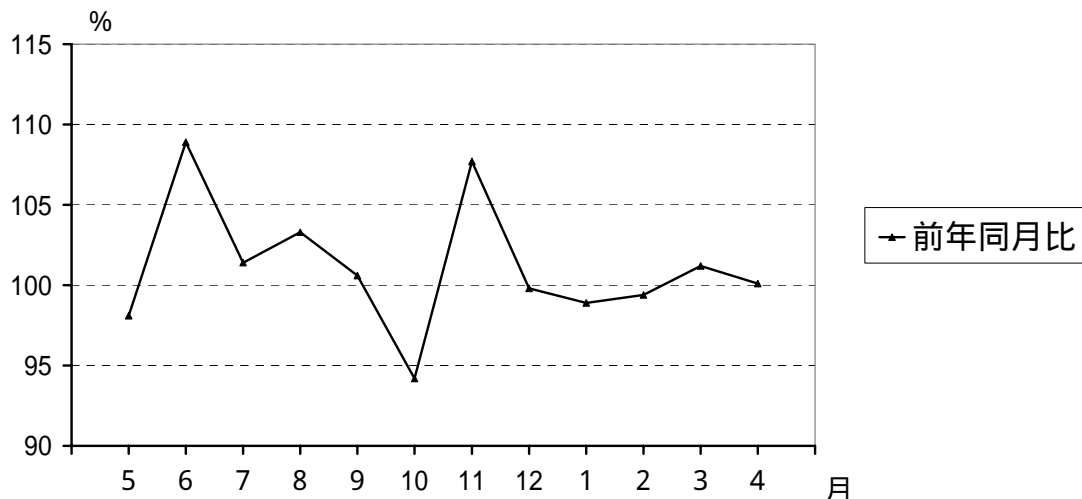
なお、平均稼働日数は、23.4日で、前月と比べ、1.9日の減少、前年同月では増減はなかった。稼働1日当たりの輸送量は269,767トンで、前月と比べて約6千トン増加し、前月比102.4%、前年同月と比べ、約300トン増加し、前年同月比100.1%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）32社の輸送トン数の推移



（図1-2）32社の輸送トン数の前年同月比

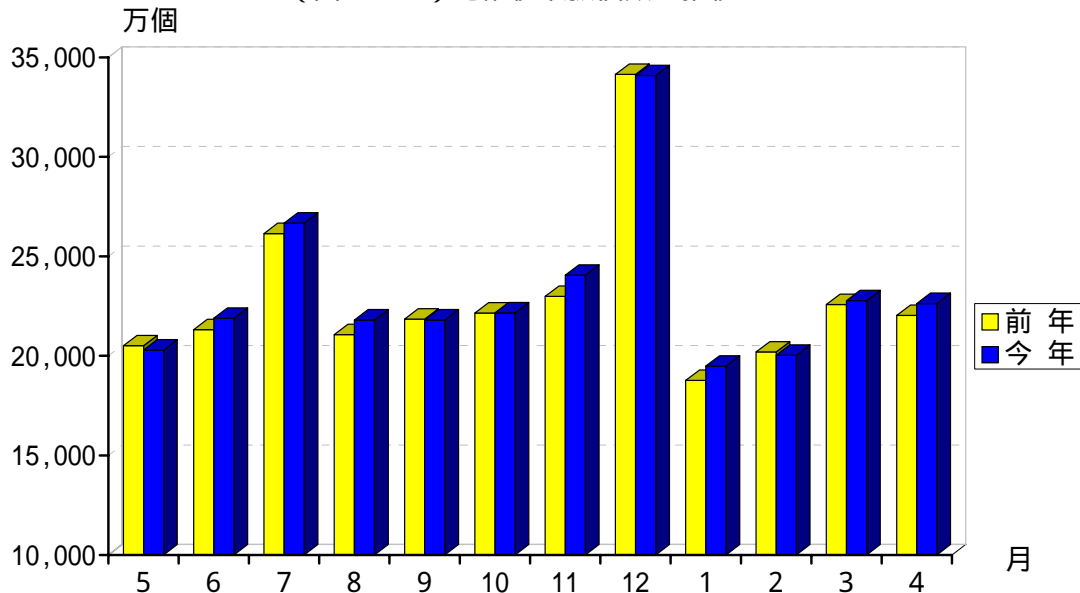


(2) 宅配便の概況

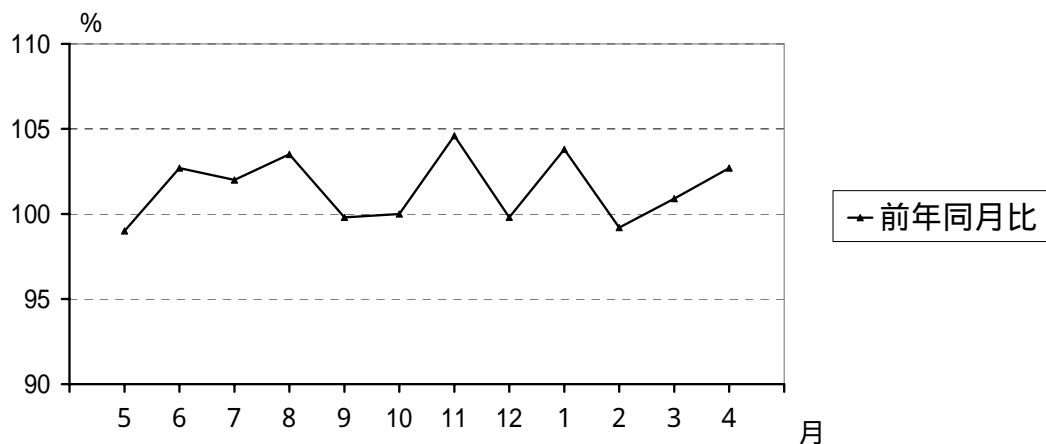
調査対象19社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、226,314千個で、前月と比べ、約144万個減少したため、前月比 99.4% (季節調整済み 101.4%)、前年同月と比べると、約 599万個増加したため、前年同月比 102.7%の実績であった。(図2-1、図2-2参照)

(注)平成17年2月より調査対象のうちの1社が宅配便の扱いを中止したため、宅配便調査対象が19社となっている。なお、当該事業者の宅配便におけるシェアが小さく(平成17年1月で全宅配便個数の約0.02%)、影響が小さいことから、前年同月比は20社のデータと比較している。

(図2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況(表1参照)

前月と比べると、稼働日数が1.9日減少したこと、また、年度末における輸送需要が終了したため、全体の輸送量は減少した。理由としては、工場・生産地からの貨物減、季節的需要減であった。また、日用品においては、商社・問屋からの貨物減が見られたとともに、その他(百貨店配送品)においても貨物減がみられた。地域的には、金属製品、機械については、北陸信越を中心に減少が見られたとともに、食料工業品、日用品については、関東を中心に減少が見られた。

前年同月と比べると、金属製品、繊維工業品、日用品は工場・生産地からの貨物減が見られ、化学工業品については、工場からの貨物増が見られたものの、その他の品目では目立った増減は見られなかったことから、全体的には、ほぼ昨年並みの輸送量となった。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 32社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因		
	著増	増	変らず	減著					
前月に比べて	農水産品	1	1	12	3	野菜	4		
							4, 8		
	金属製品		1	19	6	その他の金属製品	北陸信越、中部、中国ほか	4, 7, 8	
								4	
	機械		1	16	8	2	機械部品	関東、北陸信越ほか	4, 5, 7, 8
								1	
	化学工業品		3	20	5	合成樹脂、その他化学工業品		1, 4	
							その他化学工業品	東京	4, 7, 10
	繊維工業品		1	23	4	織物	中部ほか	4, 8	
食料工業品		7	20	5	加工食品	関東	4, 8		
						飲料、その他の食料工業品	東京、関東	4, 5, 7, 8	
日用品			19	9	書籍、その他の日用品	関東、中国ほか	2, 4, 5, 8, 10		
							2, 8		
その他		1	17	9	宅配貨物、百貨店配送品、資材	関東、全国ほか	2, 4, 5, 8, 10		
前年同月に比べて	農水産品		2	14	2		東北	4	
								4, 9	
	金属製品		3	18	4	1	その他の金属製品	関東、北陸信越、中部	1, 4, 9
							その他の金属製品	北陸信越	4, 7
	機械		5	19	2	1	機械部品、その他の機械	関東	1, 4, 7
							機械部品	北陸信越	4, 5, 7, 9
	化学工業品		5	20	3	合成樹脂、その他の化学工業品	中国、福岡	1, 4	
								神奈川	4
	繊維工業品		2	21	5	織物	関東	4	
							織物	中国	4, 7
食料工業品		4	19	3	1	その他の食料工業品	関東ほか	1, 4, 7	
								4, 7, 10	
日用品		3	16	7	1	その他の日用品		4	
						書籍、その他の日用品	関東ほか	2, 4, 5, 7, 9, 10	
その他		4	16	7	宅配貨物	東京、神奈川、関東、全国	2, 4, 5, 9, 10		
						百貨店配送品	神奈川	2, 7	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

増減要因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 842社 / 調査対象事業者数 1,071社）の輸送量は、前年同月比 101.9%、前月比 95.2%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全国	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄
前年同月比	101.9%	101.5%	102.2%	100.5%	100.1%	103.7%	100.9%	102.2%	102.3%	104.6%	94.0%
前月比	95.2%	93.5%	95.9%	95.0%	94.7%	96.8%	94.4%	91.8%	98.4%	96.6%	100.5%

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、農業関係の「化学肥料」に増加が見られたものの、冬季終了により「廃棄物（雪）」「その他の石油製品」の減少が見られ、輸入量の減少により「石炭」が、また、建設工事の減少により「砂利・砂・石材」等の減少が見られたため、全体的には対前月比93.5%となった。対前年同月比は101.5%であった。今後の見通しは、工事関係・農業関係の本格化に伴い、次月及び以降とも増加傾向にあるものと思われる。</p>
東北	<p>本月の輸送は、農繁期に入るため「化学肥料」が、気候が暖かくなってきたため「食料工業品」の増加が目立ったが、暖房用としての「その他の石油製品（灯油）」、年度末の繁忙期が終了したことにより「取り合せ品」「日用品」の輸送トン数が減少した。このため、対前月比は95.9%と減少したが、対前年同月比は102.2%と増加した。今後の輸送見通しは、次月及び以降とも減少傾向にあると見られる。</p>
関東	<p>本月の輸送は、行楽シーズンの到来により「食料工業品」が増加したが、前月まで行われていた公共工事の需要が一段落したことにより「機械」等が、また、気候が温暖になったことから「その他の石油製品」が減少し、対前月比95.0%と減少した。対前年同月比は100.5%とほぼ前年並みであった。今後の輸送見通しは、次月及び以降とも減少傾向と予想されている。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、年度末繁忙期が過ぎ、「砂利・砂・石材」をはじめとする土木建設関係品目、冬季終了による「その他の石油製品」の減少がみられたため、対前月比は94.7%と減少した。対前年同月比は100.1%とほぼ横ばいであった。今後の輸送見通しは、次月及び以降とも減少傾向にあるとみられる。</p>
中部	<p>本月の輸送は、工場からの出荷増等により「セメント」「機械」が増加したものの、前月まで行われていた建設工事の減少により「砂利・砂・石材」等が、工場稼働日数の減少により「機械（自動車部品）」が、倉庫への入出庫の減少により「その他の製造工業品」が減少した。このため、対前月比は96.8%と減少したものの、対前年同月比103.7%と増加した。今後の輸送見通しは、次月は大型連休により輸送量の減少が見込まれ、以降も減少傾向と見込まれる。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、季節的な需要により「食料工業品（液糖）」や「日用品（陳列台）」の輸送増があったが、公共工事の終了により「セメント」の減少や、年度末繁忙期の終了により「日用品（印刷物・フィッシュ廻り品）」「取り合せ品（百貨店商品）」の減少が目立ったことで、対前月比94.4%の実績となった。また、対前年同月比は、100.9%と僅かに増加している。今後の輸送の見通しは次月及び以降とも減少傾向にある。</p>
中国	<p>本月の輸送は、年度末繁忙期終了に伴い、季節的要因を原因とする公共工事の終了と、工業製品等の出荷量減少による影響が大きい。このため、対前月比は91.8%となった。ただし、一部「水産品」と「食料工業品」の輸送量は上昇したこともあり、対前年同月比について102.2%と微増となっている。今後の輸送の見通しは、次月及び以降とも減少傾向にあると予想される。</p>
四国	<p>今月の輸送は、工場からの出荷増により「食料工業品」、季節的需要増により「その他の農産物」「取り合せ品」などが増加した。一方、建設工事の減少により「砂利・砂・石材」「その他の窯業品」、季節的需要減により「化学肥料」「その他の製造工業品」などが減少した。このため、対前月比98.4%、対前年同月比で102.3%であった。今後の輸送見通しは、次月及び以降とも減少傾向にあると思われる。</p>
九州	<p>本月の輸送は、農産物出荷時期に入ったことにより「野菜・果物」が、気候が暖かくなったことによる需要増により「食料工業品（清涼飲料水）」が増加した。一方で、先月と比べて工事件数が減少したことにより、「砂利・砂・石材」「機械」「セメント」をはじめとする工事関連品目で輸送量が減少した。このため、対前月比は96.6%、対前年同月比104.6%となった。今後の輸送の見通しとしては、次月及び以降とも減少傾向にあると思われる。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、新年度に係る「取り合せ品（引越貨物）」の増加、「食料工業品（ビール）」「水産品（マグロ）」の県外向け輸送増が見られたものの、「鉄鋼（建設関連）」「その他の農産品（切り花）」「野菜・果物」の県外輸送が減少した。このため、対前月比では100.5%、対前年同月比では94.0%の実績となった。今後の見通しについては、次月は減少傾向にあるものの、以降は夏場（7月）からの増加傾向が予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局										
		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
1. 穀物	増	1	2	0	0	0	0	0	0	1	0	4
	減	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	3
2. 野菜・果物	増	1	0	0	0	0	0	0	3	9	0	13
	減	0	1	0	0	0	1	0	4	4	1	11
3. その他の農産品	増	0	1	0	0	0	0	0	2	1	0	4
	減	5	1	0	0	0	0	0	0	1	1	8
4. 畜産品	増	1	0	0	0	0	0	0	1	2	0	4
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5. 水産品	増	1	0	0	0	0	1	2	0	4	1	9
	減	1	1	0	0	0	0	0	0	2	0	4
6. 木材	増	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
	減	4	1	0	1	0	0	3	0	2	0	11
7. 薪炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 石炭	増	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	減	4	1	0	0	0	0	0	0	1	0	6
9. 金属鉱	増	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
10. 砂利・砂・石材	増	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	3
	減	7	2	0	4	2	0	2	1	9	0	27
11. 工業用非金属鉱物	増	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	3
	減	2	1	0	0	0	0	1	1	1	0	6
12. 鉄鋼	増	0	2	0	3	0	0	1	1	2	0	9
	減	1	0	1	0	0	1	5	0	2	1	11
13. 非鉄金属	増	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
14. 金属製品	増	0	1	1	1	0	0	1	0	0	0	4
	減	1	0	1	1	0	1	0	0	2	0	6
15. 機械	増	0	0	3	4	2	2	1	0	1	0	13
	減	0	2	2	2	2	2	4	1	5	0	20
16. セメント	増	2	2	0	1	1	0	0	0	5	0	11
	減	2	1	0	0	0	2	3	0	8	0	16
17. その他の窯業品	増	0	1	0	2	0	0	0	0	1	0	4
	減	2	1	1	3	1	1	1	2	1	0	13

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18. 揮発油	減	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	3
19. その他の石油製品	増	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	減	4	7	2	3	0	1	0	2	2	0	21
20. コークス・ その他の石炭製品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
21. 化学薬品	増	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	減	0	2	0	2	0	0	0	0	1	0	5
22. 化学肥料	増	5	4	0	2	0	0	0	1	0	0	12
	減	0	1	1	2	0	0	1	2	0	0	7
23. その他の化学工業品	増	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
	減	0	0	0	1	0	3	2	0	0	0	6
24. 紙・パルプ	増	2	0	2	1	0	0	1	1	2	0	9
	減	2	1	1	1	1	1	1	1	1	0	10
25. 繊維工業品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
26. 食料工業品	増	2	4	2	1	0	2	2	5	7	1	26
	減	2	0	0	2	0	0	0	1	3	0	8
27. 日用品	増	2	2	0	1	0	0	0	2	3	0	10
	減	1	1	0	0	0	4	3	1	5	0	15
28. その他の製造工業品	増	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2
	減	0	0	0	0	1	0	3	3	3	0	10
29. 金属くず	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	3
30. その他のくずもの	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31. 動植物性飼・肥料	増	1	1	0	1	0	0	0	0	2	0	5
	減	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
32. 廃棄物	増	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	減	11	0	0	1	0	0	0	0	1	0	13
33. 輸送用容器	増	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	3
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
34. 取り合せ品	増	1	1	0	0	0	0	1	3	3	2	11
	減	1	1	0	0	0	2	2	3	2	0	11
35. その他	増	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	4
	減	0	0	1	0	1	1	1	3	0	0	7